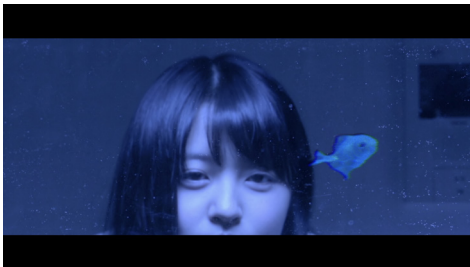


MoBrain

映像学科 二羽恵太



2011年に九州大学芸術工学部芸術情報設計学科を卒業。2022年に同大学大学院芸術工学府芸術工学専攻博士後期課程を修了し、東京工芸大学芸術学部にて教育研究に従事。
実写・CG映像を中心に制作し、国内外問わずコンペティションにて精力的に発表。日常生活で感じた違和感から着想を得て、一風変わった世界観で表現することを制作の軸にしている。



アジア最大級の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2018」にて入選・上映した本作品は、脳に情報をダウンロードできるウェアラブルデバイスが発明された時代における、女性の朝の日常を描いたショートムービーです。

制作の動機付けとなったのは、ふと電車内を見渡したときに誰もがスマートフォンに夢中になっている光景が目に入ったことです。気付かぬうちに侵食されているような恐怖感を覚えました。

人類が道具を発明してきたことで、現代では便利で豊かな生活を送ることができるようになりましたが、その反面で人と道具の関係性は大きく変化しているように感じます。そんな不穏な空気を近未来の世界で表現しました。